

平成30年度 菊川市女性就労・就業支援事業【静岡県菊川市】

地域の実情と課題

これまで、働く意欲を持つ反面、就業することへの悩みや不安を抱える女性を対象に事業を実施してきたが、未だ潜在的に存在する就労への意欲を持つ女性への支援、また、こうした支援事業の継続を求める声に答えることが必要である。

菊川市を含む管内の労働市場における有効求人倍率は3年以上1倍を超えており、雇用者不足の声が聞かれる中で、働く意欲のある女性の就業が不可欠であり、ひいては女性活躍の場の創出につながる。

事業の特徴

- ①セミナー・講座の実施...就業に至るまでの知識等を習得するセミナーや、就職に対する不安や悩みを解消する講座を全7回実施した。
- ②合同企業説明会の実施...企業の採用担当者との交流を図り、企業とのマッチングを行うため、合同企業説明会を開催した。7社の市内外企業がブース出展した。また土曜日開催とすることで、女性参加者の参加しやすさに配慮した。
- ③企業向けセミナーの開催...女性を採用する側の企業の意識付けを目的とし、企業向けに女性の活用方法セミナーを開催した。7社(11人)が参加した。

事業の効果

参加者数(及び就業者数)は目標値に至らなかったが、例年より就職に前向きな女性の参加者が多く、積極的に講師や企業と交流を図る様子が多く見受けられ、就労・就業に対する意識の高さが伺えた。またアンケートでは「とても満足」「満足」又は「とても理解できた」「理解できた」との回答が9割得られたことから、参加者の満足の高さが伺えた。

また企業側からも、アンケートで「女性の率直な意見や希望を聞いたので自社制度改定など検討したい」や「労働力確保について大変参考になった」などの意見があがり、女性の採用に対する企業側の意識啓発を行うことができた。

目的・目標

働く意欲のある女性を対象に、セミナー等の就労・就業支援事業を実施することで、就職に関わる悩みや不安を解消し、女性の就職・再就職への第一歩を後押しする。

【目標値】①継続セミナー参加者20名、②講座参加者 延べ60名、③女性就業者数8名

【実績値】①継続セミナー参加者32名、②講座参加者 延べ47名、③女性就業者数3名

連携団体

- ・菊川市商工会:企業向けセミナー及び合同企業説明会への参加企業を募った。
- ・小笠雇用対策協議会支部会:近隣市在住の求職者への事業周知や、事業者への求人紹介、合同企業説明会参加協力の呼びかけを行った。
- ・掛川市及び御前崎市:事業周知、事業所への参画呼びかけを依頼し、就業先事業所の拡大を図った。
- ・掛川公共職業安定所:菊川市との共催で毎月開催する女性就労相談窓口「なでしこワーク」利用者に対し、事業周知を行った。

今後の課題

未だ就職に関わる悩みや不安を抱える女性が存在するので、実践的なセミナーではなく、働く前段階の心構えを習得するようなセミナーが必要であると考えます。また働くイメージを抱けない女性に対し、働くイメージより具現化するために、直接働く現場を見学する機会を設けることも必要である。さらには企業と就職希望者のマッチングの機会としての合同企業説明会も引き続き開催する必要があります。

次年度についてもアンケートの意見等を参考に、参加者の意見を反映した事業になるよう進めていく。

事業の概要

菊川市があなたを完全サポート！ これからの働き方を一緒に探しませんか？

平成30年度 菊川市女性就労・就業支援事業

働く意欲のある女性を対象に、セミナー・講座・合同企業説明会の就労・就業支援事業を実施することで、就職に関わる悩みや不安を解消し、女性の就職・再就職への第一歩を後押しする。無料の託児サービスを実施するなど、子育て中の女性でも気軽に参加できるように配慮した。

女性を採用する側の企業の意識啓発を目的とし、企業向けに女性の活用方法セミナーを開催した。

実施期間	平成30年6月～平成31年2月
参加人数	延べ人数79名
連携機関	菊川市商工会(参加企業募集)、小笠地区雇用対策協議会(求人開拓)、掛川公共職業安定所(求人開拓、女性参加者募集)、市内各公共施設(事業周知・PR)
周知方法	チラシ全戸配布、専用ホームページ開設、菊川市メール配信サービス等
事業委託	株式会社東海道シグマ
実施内容	下記のとおり

【セミナー】

パソコンセミナーやビジネス用語セミナーなど、就業に至るまでの知識等を習得するセミナーを実施した。



【合同企業説明会】

求職者と企業とのマッチングを行うため、7社の市内外企業が出展する合同企業説明会を開催した。



【講座】

スキル運用講座や働き方講座など、就職に対する不安や悩みを解消する講座を実施した。



【企業向けセミナー】

企業向けの女性の活用方法セミナーを開催した。女性の採用に対する企業側の意識啓発を行うことができた。

